

知多地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和5年11月22日（水）午前10時00分～正午
- 2 会場 大府市立横根公民館
- 3 参加者
 - ・協議会委員 24名
 - ・協議会委員以外の参加者 15名（行政関係者3名、子育て支援団体5名、子育てネットワーカー7名）

II 日程・内容

- 1 開会行事 午前10時～午前10時15分
優良家庭教育推進組織等顕彰

◇ 子育て支援サークル あそびのいっぽ （大府市）

子育てネットワーカーなど11名が、子どもの健やかな成長と子育て中の親の支援を目的として活動している。特に食品支援の活動にあたっては、子ども食堂とは異なり、支援を受けていることを他人に知られたくないという気持ちに配慮するとともに、各家庭の悩みに耳を傾け、孤立することのないように支えている。



◇ 東中スクールサポーター（東浦町）

平成22年に東浦中学校PTA役員のOB・OGが中心となって組織された。活動をとおして、生徒のサポーターや地域の方への挨拶、家庭での会話も増えつつある。また、毎年少しずつ増えているサポーターの活動・交流は、保護者同士のつながりを深めるだけでなく、地域のつながりへと広がっているように感じている。

- 2 ミニ講演 午前10時20分～午前11時

「気持ちのバトンが繋がったとき」子育てネットワーカー 大橋 房代 様



＜参加者の声（アンケートより抜粋）＞

- ・あそびのいっぽさんの取組がよく分かりました。本町でも似た様なことを取り組んでいると感じたが、遊びに連れて行くことまでは、なかなかできることでないと感じた。サークルを継続していくためにメンバーがどの様に構成されてどの様な方が集まっているかを知りたい。
- ・大橋さんのお話、とても良かったです。温かい人柄があふれていました。とても参考になりました。

3 グループ協議 午前11時～午前11時40分

「家庭教育支援を必要としている人に支援を届けるには」
＜協議後のグループ発表より＞

- 様々な支援があることを発信しているが、連絡がこない。情報をもつ人たちが連携し、情報共有ができるとよい。
- 縦割りの行政が課題。活動内容や対象児の年齢、家庭の状況によって担当課が違う。横のつながりを持ち、連携して活動できるとよい。



- 親は自分の物はなかなか買えないので、親への支援は大切である。支援を必要とする人をどう見つけていくかが課題。
- 不登校も増えているが、不登校に対する考え方も変わってきている。今の時代に合わせたサポートが必要。そして、支援をする側も楽しく支援していきたい。

＜参加者の声（アンケートより抜粋）＞

- はじめての参加でしたがそれぞれの地域で子育て支援に取り組んでいる様子が理解できました。
- 豊かな経験と想いをもった方と交流できて嬉しい。しかしながら、自分だけがこんなに豊かな機会を得ているのはもったいない！子育て世代の方に還元したい。
- 地域の子供たち、それを支えている保護者の方々への支援を真剣に考えているグループ、人々がいることを嬉しく、また頼もしく感じました。勉強にもなりますが、気持ち良く前向きな意見交換ができたことが一番良いと思います。
- コミュニティの会長さんと同じグループでお話を聞くことができました。地域に信頼できる大人がいるということは、子供にとっても親にとっても安心して生活できることだと感じました。衣食住が安心できることの上に家庭教育があるように思います。信頼できる大人のまねをすることも小さい人たちにとって大切な学びの機会であると思いました。
- グループ協議は、とても良い人数と組み合わせと感じたが、もっと話し合いたかった。テーマも良かった。

4 指導講評 午前11時40分～午前11時50分

5 開会行事 午前11時50分～正午

Ⅲ 成果と課題

協議のテーマに沿ったミニ講演を行い、協議が活発に行えるようにした。アンケートから、ミニ講演がとても参考になったとの声が多くあった。また、グループ協議については、参考になったという意見もあったが、もっと人数を増やし多様な人々と協議したい、協議の時間を長くしてほしいという意見もあった。来年度の課題とし、子育て支援活動をされている方々の参考になる、そして連携を深めることのできる会にしていきたい。